

平成23年度事業計画

平成23年度、交通文化振興財団は、新公益法人制度下の公益財団法人として新たにスタートすることとし、定款における事業の目的を、「交通が社会や文化の発展に果たしてきた役割など交通に関する知識の普及を図り、もってその基盤をなす学術及び科学技術の振興に貢献するとともに、広く交通文化の振興に寄与すること」と定めた。

今年度は、この目的の達成に向けて諸事業を展開していくこととする。

博物館の運営に関する事項

現在、当財団の主たる業務は、交通科学博物館と梅小路蒸気機関車館の運営受託である。今年度も引き続き、両博物館における展示の充実、催物の活性化、資料の収集・整備・保存、教育普及活動・調査研究の推進等を図っていくほか、交通科学博物館が平成24年1月に開館50周年を迎えるため、これを記念した行事、事業を企画、実行する。

また、様々な機会を通じ当財団法人独自の立場から交通文化の振興に寄与していくこととする。

1. 常設展示

両館とも常設展示については、従来の展示を継続することを基本とするが、一部展示替え及び展示改良を行う。

- (1) 交通科学博物館においては、第6室「鉄道と文化」コーナーにおいて、テーマを替えて年3回程度の展示替えを行う。また、第2展示場のポイント・信号機を体系的に解説展示する。
- (2) 梅小路蒸気機関車館においては、往時の乗車券(硬券)の製造から集札までの過程の展示を新設する。また、保存機関車にまつわるエピソードを解説に加えるなど、より展示物への興味を抱かせる工夫を行う。

2. 催物

催物については、交通科学博物館では開館50周年を記念して特別展やイベントを行うほか、梅小路機関車館では、「街道と鉄道」、「御召列車」などの企画展や多客期イベント等を実施する。

(1) 交通科学博物館

ア. 企画展等

- (ア) 新幹線「新・時代」展 (10月8日～12月25日)
- (イ) 交通科学博物館50周年記念展「交通で見る黄金の60年代」(平成24年1月21日～5月27日)
- (ウ) エントランスギャラリーにおいて、収蔵資料の展示を行うほか、部外協力団体(モデルシップ友の会、京都大学鉄道研究会OB会、関西大学鉄道研究会OB会など)の展示を行う。

イ. 多客期イベント

- (ア) ゴールデンウィークのイベント「のりもの物知りサイエンスショー」(4月29日・5月1日～5日)
- (イ) 夏休みイベント「のりものタイムトンネル」(7月16日～8月31日)
- (ウ) 春休みイベント「開館50周年記念イベント ホールショー」(3月24・25日)

ウ.その他

- (ア) クリスマスなど、季節の行事にあわせた飾り付けやノベルティーの配布などを行う。
また、鉄道の日を記念したイベントを実施する。
- (イ) わくわく工作スクールを、母の日や夏休み等期間に合わせ開催する。
- (ウ) パノラマ模型鉄道運転演示を毎日実施するほか、ミュージアム探検ツアー、ミニSL運転会等を随時開催する。

(2) 梅小路蒸気機関車館

ア.企画展等

- (ア) 「街道と鉄道」(4月上旬～7月上旬)
- (イ) 「御召列車」(7月中旬～11月上旬)
- (ウ) 「鉄道構造物 ～橋梁編～」(11月中旬～平成24年3月下旬)

イ.多客期イベント

- (ア) ゴールデンウィークイベント「SL Go!Go!」(4月29日～5月5日)
- (イ) 夏休みイベント「梅小路SL館に巨大迷路出現!」(7月16日～8月31日)
- (ウ) 鉄道の日イベント「SLファン大集合!」(10月9日～10月10日、10月14日)
- (エ) 春休みイベント「うめこうじ鉄道模型ワールド」(平成23年3月17日～3月31日)

ウ.その他

実物蒸気機関車(スチーム号)体験乗車を毎日実施するほか、HOゲージ模型運転会、ミニ新幹線体験乗車会等を随開催する。

3. 展示物の整備等

本年度も、両博物館館とも展示物の維持等を目的とした整備を行っていく

- (1) 可動模型、映像装置等を年間を通して良い状態に保つため、必要なメンテナンスを行う。
- (2) 展示物の特別清掃、可動部点検等を随時実施し、良好な展示状態の維持に努める。
- (3) 保存車両の劣化を防止するための整備計画を進める。

4. 資料収集・整備保存

(1) 歴史・文化資料の収集

鉄道錦絵・鳥瞰図等の美術品、明治以降の交通地図、沿線案内図、都市地図、絵葉書等の交通関係資料を引き続き収集・購入する。

(2) 図書の収集

明治期や大正期の鉄道資料の復刻版を順次購入する。また、新刊書も購入していく。

(3) 資料の整備保存

収集資料は、基本的には交通科学博物館で保管されている。それらの整備保存、検索効率化等に今後とも取り組んでいく。

ア. データベースの構築及び一部画像登録

現在、未整理分を除く約59,000点の交通科学博物館収蔵品(収蔵資料:約40,000点、収蔵図書:約19,000点)がデータベース化されており、本年度もこれを継続する。

また、資料検索の効率化を図るため、平成20年度より一部の収蔵品について画像をデータベースに追加登録する作業を行い約2,500点完了したが、今年度も引き続き実施する。なお今年度は、梅小路蒸気機関車館収蔵品のデータベース化にも着手する。

イ. 資料のデジタル化

「鉄道公報」(明治40年～昭和62年)のデジタル化を劣化の著しいものから順次実施しており、昨年度までに大正2年～昭和5年分及び昭和20年～昭和35年分(42%)が完了した。今年度も引き続き実施する。

ウ. 映像・写真類の整理

国鉄時代の16ミリ及び8ミリフィルム(約1,300点)の修復及びDVD変換作業、車両写真等(約14,000点)の整理登録作業を進めているが、昨年度までにそれぞれ75点(6%)、9796点(73%)完了した。今年度も昨年度に引き続き、貴重な映像・写真類の整理を進めていく。

5. 教育普及活動

前年度と同様、以下のような取組みを行う。

- (1) 交通科学博物館においては鉄道施設の見学会などの「ミュージアムセミナー」を、梅小路蒸気機関車館においてはSLに関係した講演・見学会「SL館トーク」を、それぞれ年2回程度実施する。
- (2) 移動博物館を実施し、各地域の人々に、鉄道の歴史や文化、鉄道の役割などを伝える。
- (3) 館内設置の展示品解説シートやワークシートの追加及び内容の更なる充実に努める。
- (4) 企画展開催時の図録または展示解説パンフレットをより充実させる。
- (5) 教職員の社会体験実習及び中学・高校生の職場体験学習に協力する。
- (6) 博物館法等に基づく学芸員資格取得のための博物館実習生を受け入れる。

6. 調査研究

- (1) 鉄道文化遺産の調査及び評価をJR西日本及び有識者と実施し、展示や教育普及活動に反映させる。
- (2) 企画展等開催にあたって調査研究した内容に基づき、図録や解説シート等の資料として作成配布し、教育普及に資する。

7. 広報宣伝

駅張りポスター等JR媒体を活用して、催物の案内に努めるとともに、マスコミ等へのパブリシティーを定期的及び随時きめ細かく実施する。

- (1) 企画展、各種イベント等開催時にポスター、チラシ等を製作し、駅及び近隣の博物館や交通関係博物館、観光案内所、その他集客施設などへ掲出依頼を行う。
- (2) 館だよりの定期的な発行(年4回)を行い、催物の案内及び展示品やミュージアムショップの案内など幅広い情報発信に努める。
- (3) ホームページを最大限に活用し、展示案内や各種企画展の情報提供をきめ細かく行う。
- (4) ホームページ内「通信」欄を活用し、きめ細かな情報提供を行うほか、他欄においてもより分かりやすい文章表現とし、内容の充実に努める。
- (5) 中国・韓国からの来館者が増えていることから、英文に併せて中国語、韓国語等のパンフレ

トの制作を進めて行く。

8. その他

- (1) 博物館関係機関及び教育機関等との連携を深め、交通文化の普及や魅力発信に努める。また、自治体を実施する各種イベントにも積極的に協力する。
- (2) 交通科学博物館50周年及び梅小路蒸気機関車館40周年記念誌発行に伴う編纂作業を進める
(24年度10月発行予定)

財団法人の運営に関する事項

1. 公益財団法人としての業務運営の確立

新公益法人制度下の公益財団法人として新たにスタートしたことに鑑み、それに相応しい適切な財団運営に努めることとする。

2. 日本博物館協会(日博協)、全国科学博物館協議会(全科協)等の各種研修会に積極的に参加するとともに国内外の博物館を視察し、職員のレベルアップを図る。
3. 西日本旅客鉄道株式会社の新博物館構想への提言
西日本旅客鉄道株式会社が梅小路地区において設置を検討している新博物館について提言を行う。
4. 職員の知識及び意欲の向上を図るため、業務研究発表会を年1回新たに実施する。
5. 関連事業については、博物館来館者の利便に資するとともに、当財団法人の健全な発展を図るため、引き続き適切な運営に努める。